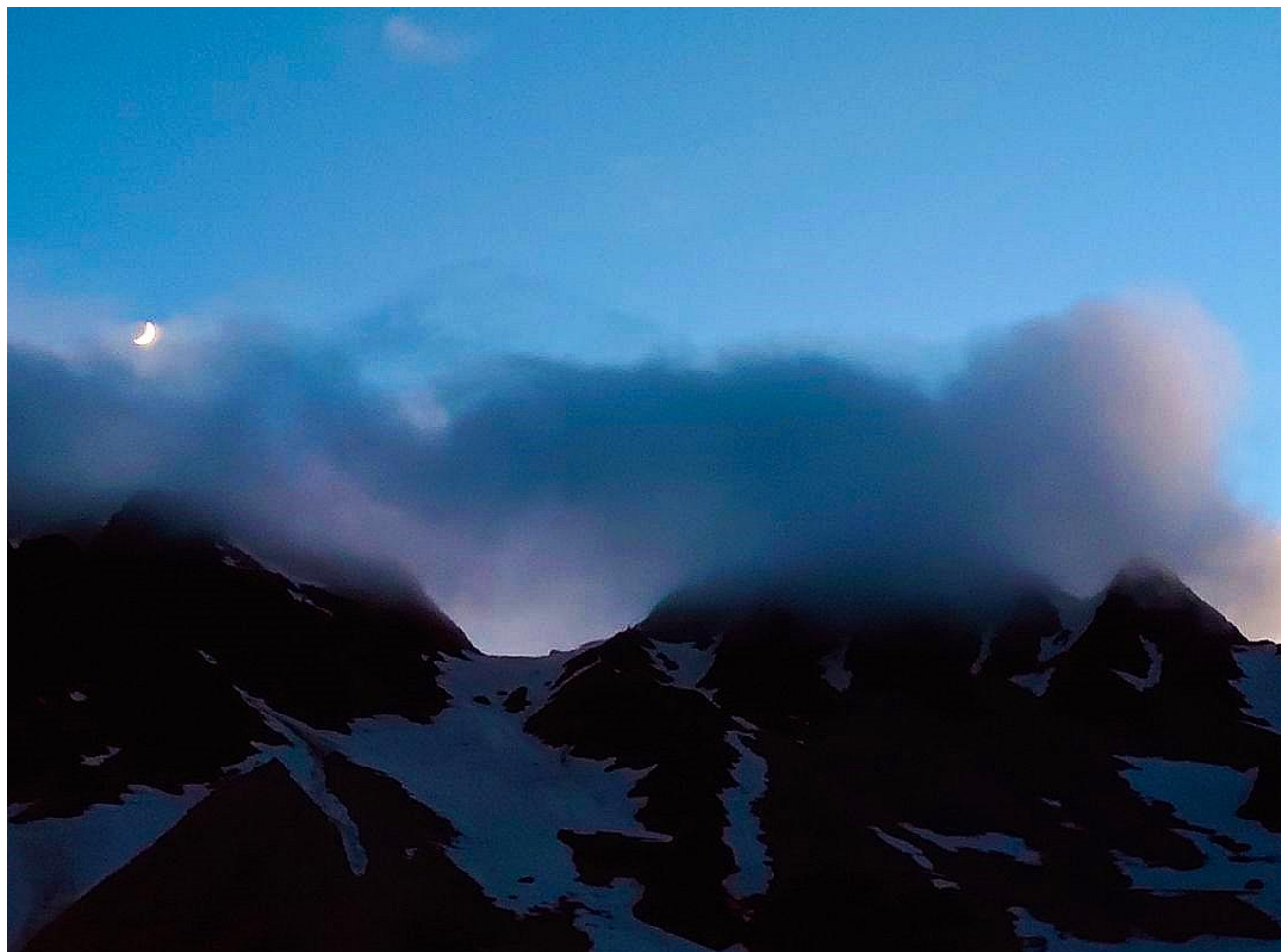


山岳友の会会報

2022年7月 第44号



涸沢談話会の夜、空の三日月と涸沢槍の三日月雪形、2022/7/4 19:40 鈴木撮影

も く じ

第57回現地研修会（高野山・熊野三山）	報告1 澤田 義幸	2
	報告2 渡邊 修	4
明神養魚池メンテナンス（22.6.11）	報告 小林 久雄	10

第57回現地研修会

高野山・熊野三山・那智の滝を巡るたび 報告 その1

澤田 義幸

期日:2022年(令和4年)5月9日(月)~11日(水) 参加者 12名

◎道中記

第1日目 曇りから小雨

小黒川PAでバス乗車し本隊に合流、多くの皆さんからの差し入れに感謝し、車中美味しくいただきながら一路高野山へ、12時30分橿原の食事処「がんこ」にて昼食、15時30分高野山奥の院に到着、ガイドの寺阪隆勝さんの案内により奥の院巡りをする。

今回は神社仏閣巡り、せっかくの機会ですので御朱印を授かりたいと思い、奥ノ院で朱印帖を購入し「弘法大師」の御朱印を授かり、以後10カ所御朱印を授かりました。

17時 宿坊「成福院」着 夕食 情報交換



高野山奥ノ院にて



根本大塔への参道

第2日目 薄曇り

6時30分 成福院本堂で朝の勤行 ご住職のお話をいただく。朝食後玄関前で記念撮影、バス乗車、8時45分金剛峯寺着、ガイドの寺阪さんの案内により、金剛峯寺、根本大塔・金堂参拝、11時食事・お土産処「数珠屋 四郎兵衛」で昼食。お土産購入後、12時金剛峯寺発、竜神温泉経由 15時熊野本宮大社参拝、16時10分熊野速玉大社参拝、17時10分渡し舟で宿泊場所「ホテル浦島」着、岩窟温泉巡り、夕食、私の部屋のみなさんは長旅で疲れたのか夕食後すぐ眠りについていました。

第3日目 雨

7時朝食(バイキング)、8時浦島発、8時40分熊野那智大社、西国第一番札所那智山青岸渡寺参拝後、お土産店「和か屋本店」でお茶と「お滝もち」をいただき美味しかったので購入する。9時45分那智の滝で記念撮影、11時鬼ヶ城着隆起と浸食による奇景(天然記念物)の海岸を散策、12時食事処「鬼瓦」で刺身三味の昼食を満喫する。食事後「お魚市場 おとと」まで全員で歩きお土産を買い求める(バスの運転手さんの食事時間に配慮し食後の運動も兼ね)。13時10分「お魚市場」を出発し一路帰途につく。

◎熊野大社の「牛王宝印」

熊野大社の御神符「牛王宝印」カラス文字で書かれた熊野山独特の御神符(ヤタガラスサッカー日本代表のシンボルマーク)

熊野大社の牛王宝印は熊野信仰の人々をあらゆる災厄いから守ってくれるという厄除けの御神符として使用や、または裏面に誓約文を書いて誓約の相手に渡す誓紙としても使わ

れているようです。誓約を破れば神への誓いを破ったとされ神罰が下されるとのことです。

熊野三社ともカラス文字で牛王宝印が描かれています。それぞれ描かれたカラスの数が違っています。(熊野本宮は 88 羽、熊野那智大社 72 羽、熊野速玉大社 48 羽 理由はまだ調べていません)

熊野大社牛王宝印



那智大社



速玉大社



本宮大社

御嶽山牛王宝印



王滝村御嶽神社



埼玉本庄 普寛堂



那智の滝

御嶽山でも江戸時代後期、軽精進で登拝がされるようになってから「牛王宝印」が授与されていたようです。その版木が王滝村の御嶽神社と埼玉県本庄市の普寛堂で見つかり、御岳山の御神符として摺られていたようです。このようなことから牛王宝印に興味を持ち今回、熊野大社(三社)で牛王宝印を授かりました。

今回の研修で多くの御朱印、御神符を授かり、楽しく有意義な研修となりました。三日間安全にバスを運転していただきました朝日観光の中村さんありがとうございました。

今後の山岳友の会の事業が無事に実施できますことを御祈願するとともに会員のみなさまのご健康とご多幸を祈念し報告とさせていただきます。



高野山奥ノ院
弘法大師と記述の
御朱印

第 57 回現地研修会

高野山・熊野三山・那智の滝を巡るたび 報告 その 2

渡邊 修

令和 4 年度第一回目の現地研修会は、昨年度新型コロナ感染拡大による県外への移動制限等感染予防対策によりやむを得なく中止になった「世界遺産：紀伊山地の霊場と参詣道の高野山、熊野三山、そして日本一の落差を誇る日本三大名瀑那智の滝を巡るたび！」

毎度のことながら気の置けない仲間と行く旅は嫌が上にも楽しく盛り上がらない筈がありません。申し込みをした時点から今年度最大のメインイベントに期待が膨らみました。

5 月 9 日(月)初日

我ら王滝三人衆(澤田、立花、渡邊)は小黒川 PA で合流。事前に王滝村出発を 4 時 45 分と決めていたにも拘わらず…5 時 10 分過ぎに突然の電話、澤田さんから「待っていたけど…もう出発したよ！どうした…？寝坊していないよなあ？」とのこと。何と云うことか…5 時 45 分発と 1 時間も間違えるまさかの大きな勘違い。(よくよく考えれば王滝村から伊那市まで 1 時間少々は掛かるのだから……小黒川 PA6 時 40 分集合。事前のお知らせでもご丁寧に(※時間は前後することがありますので、早めに集合してくださいとの注意書きまであったのに)此では間違いなく間に合わない！……少し飛ばさないと！)3 時 45 分には起床し朝食を済ませ身支度も整えていたのだが、再度持ち物の点検、トイレを済ませ遅れること 15 分急いで出発。幸いにも早朝で交通量も少ない。何時もより少し深く？アクセルを踏み込んで王滝高速村道 1 号線→王滝・木曾高速県道 256 号線→高速国道 19 号線→高速国道 361 号線(権兵衛峠)を軽快に飛ばし 6 時 15 分には小黒川 PA に到着。澤田さん立花さんはアルコールの買い出しでほぼ同時の到着となった。あと 30 分遅かったら確実に遅刻していました。なんとも……出だしからこの先を案ずるまさかの躓き！反省！

荷物を PA に運び待つこと 15 分バスが到着し乗車……「あれっ！会長の姿がない！」楽しみにしていた筈なのに急遽欠席とのこと！残念……盛り上がりにかけるなあ！と思いつつ参加者が全員揃ったところで運転手さんから挨拶があり出発となりました。

バスの中はサロン形式での飲酒ができないので盛り上がりには欠けませんが節度をもって静粛に……静かにとは言え順調に AC が入り始めると小声だった筈の会話も…次第に大きくなり盛り上がらない筈がありません。運転手さんの休憩時間に併せてのトイレ休憩、途中刈谷ハイウェイオアシスでは Kawasaki W1(650CC)に乗られている札幌から名古屋に来られたと言う御年 60 歳(真ん中は越えているそうです。確かに近づいてみると…目尻に皺も…これ以上は言うまい！)の女性ライダーにお目にかかりお話ができました。後 4 年後私は単車に乗っているのかな？と思いつつ、この年でなんとも素晴らしいではありませんか！写真撮影も快諾いただき彼女の安全走行をお祈りして記念に 1 枚パシャリ！順調にバスは運行し昼食の奈良県橿原を目指します。



初日の昼食

12 時半過ぎには橿原の「和食がんこ寿司」に到着。中々落ち着いた風情のあるお店でした。熊谷副会長の生ビール乾杯で昼食となりました。美味しい料理を沢山食べてビールもたっぷり飲んで十分に堪能し出発。所々で弱い雨が降ってきていますがバスは順調に「高野山奥之院」を目指します。麓から高野山への道は曲がりくねった長い坂道が続きます。細萱さんが某 A 交通会社で現役バリバリだった頃、旅行中のバスの故障で代車を夜中に松本市から何時間も走らせ高野山や南紀勝浦まで届けた思い出のエピソードを話してくれて大

いに盛り上がりました。(細萱さん大型二種免許取得していたとは凄い！…驚きと同時にちょっと尊敬しちゃいました！)

午後 3 時半過ぎに漸くバスは本日最後の見学地「高野山奥之院」へのアクセスとなる中の橋駐車場に到着。残念ながら霧雨が降っています。

奥之院は壇上伽藍とともに高野山の信仰の中心であり、弘法大師空海が入定(にゆうじょう:真言宗に伝わる伝説的信仰。原義は「禅定」に入るという意味。ことに弘法大師空海が永久の瞑想に入っている信仰を指します。)されている聖地です。

豆知識【弘法大師空海】

弘法大師(空海)俗名は佐伯真魚(さえきのまお)、真言密教を中国から日本に伝えた真言宗の開祖です。宝亀 5 年(774 年)に讃岐国(現在の香川県)にて生誕、20 歳で出家。31 歳で唐(中国の王朝)に渡り師匠となる恵果和尚(えか/けいかわじょう)に出会い入門。密教の教えを授かり、帰国後、鎮護国家と濟世利民の祈りの道場として、併せて修行者のための修禪の道場として、平安時代(弘仁七年(816 年))高野山を開かれました。

駐車場で高野山の名ガイド寺坂?氏から日程説明後、要所で趣ある説明を聞きました。探究心旺盛な会員は適時適切な質問をしながら参道を御廟(ごびょう)のある奥之院へと向かいます。参道の両側には何百年もの時を経た歴史的価値の高い見事な老杉の巨木が聳え立ち 20 万基を超えるとも言われる諸大名、我が国を代表する著名な会社等の特徴ある立派な墓碑、祈念碑、慰霊碑等、深遠な景観が広がっています。

御廟橋から先は聖域中の聖域となることから脱帽して参詣。残念ながら写真撮影も此処から禁止となります。弘法大師空海の眠る御廟。御廟は弘法大師が入定された地の上に建立されていますので私たちが入れるのはその手前にある燈籠堂。残念ながら燈籠堂の地下の戒壇巡りは新型コロナ感染防止のため拝観ができませんでした。参拝を済ませ駐車場に戻ります。

寺坂名ガイドの素晴らしく、巧みな話術に確りと嵌まり?皆さん帰り道の売店では「此処でしか買えない!」と言われる「弘法大師空海」の金色に輝くカード型のお守り何と! 三千円をはじめ沢山のお土産を購入(勿論、私もカード型のお守りはじめ自宅、親戚へのお土産に線香と併せて購入させていただきました。)し、ガイドさんに別れを告げ本日の宿泊地「高野山宿坊:藤之坊 成福院」に到着となりました。

入浴後は飲酒もほどほどに広い貸し切り状態の宴会場へ、お膳に目をやりますと……やはり想像通り! 期待を裏切らない素晴らしい? 精進料理でした。山岳友の会らしくなく、アルコールの追加も殆ど無く盛り上がり欠ける極めて品行方正な静かな夕食と相成りました。勿論、夕食後の部屋飲みで盛り上がったことは言うまでもありません。明日のお勤めに備え何時もより早い就寝となりました。



宿坊での精進料理の夕食

5 月 10 日(火)二日目

今回も部屋割りに恵まれ普段と変わらぬ何時も通りの熟睡ができたことから、清々しい野鳥の囀りアラームで 4 時過ぎには爽やかな目覚めとなりました。有り難いことに昨夜の雨も上がっています。昨夜夕食時に説明があった朝食前の「お勤め」が約 1 時間金堂で行われました。(若干 K さん、T さんの 2 名は此のお勤め場所が解らなかったとの理由で 10 分ほどの遅刻……こりゃあ、この旅以降もきっと御利益無いぞ! と密かに心の中で思いつつ……!) お勤めは山岳友の会のメンバーのほぼ貸し切り状態でした。(1 名は他の宿泊者でした。)

藤之坊 成福院のご本尊は「大随求明王:だいずいぐみょうおう」(オンバラバ サンバラ サンバラ インジュロヤビシュダニ ウンウン ロロシャレイソワカ)脇物は本尊左脇に不動明王、本尊右脇には愛染明王を配置しています。

お勤めの最後に上綱(じょうご:高野山のお坊さんで位の高い方)の説法を有り難く拝聴しました。一昨年来新型コロナ感染拡大により参詣者、宿泊者が激減して殆ど宿泊者が無い状況だったため、13名もの大勢?の方がお勤めされるのは久しぶりと言って大変喜んでおられました。

朝食はと言いますとこれまた期待を裏切ること無く夕食同様に精進料理!……食事中に高野山の大正～昭和初期までの変遷ビデオを見ながら、そして料理を十分味わいながら美味しくいただきました。身支度を整え玄関に集合、オフィシャルカメラマン不在ながら記念撮影をしてから金剛峯寺へと向かいました。

豆知識【金剛峯寺】

金剛峯寺は、弘法大師空海が「金剛峯楼閣一切瑜伽楡祇経(こんごうぶろうかくいっさいゆがゆぎきょう)」にもとづいて名付けられた高野山の総称です。

現在は奥之院弘法大師御廟を信仰の中心として結成された高野山末寺 3600カ寺、信徒1000万の総本山です。もと文禄2年(1593年)豊臣秀吉が母堂の菩提のため寄進したものでしたが、当時の建物は火災で損失し、現在の建物は文久3年(1863年)に当時の姿をそのままに再現されたものです。



金剛峯寺

程なくして金剛峯寺に到着。本日のガイドも昨日の名ガイド寺坂氏が引き続き担当され、寺内の見所である大広間、持仏間(狩野派の襖絵)→柳の間(山本探斎襖絵)→別殿を見学。新別殿では徳島県在住のお坊さんによる1. 布施(ふせ)について2. 和顔(わがんせ)について12分の柔らかな説得力のある語りかけの説法を有り難く拝聴しました。その後も→国内最大級の石庭蟠龍庭(ばんりゅうてい)→上段の間(壁は総金箔押し、天井は折上式格天井の書院造り)→奥書院(雪舟として名高い雲谷等益、雲谷等彌の襖絵)→茶の間→土室等を順次見学しながら解り

易く説明していただきました。正に「立て板に水」お見事です!金剛峯寺の拝観を終え壇上伽藍へ向かいました。

豆知識【壇上伽藍】

壇上伽藍は、弘法大師空海が高野山を開山した際に、真っ先に造営に取り組んだ場所で、奥之院とともに高野山の二大聖地の一つです。密教思想に基づく曼荼羅(まんだら)の世界観を具現化したものと言われ、高野山全体の総本堂である「金堂」や高野山のシンボルともいえる高さ48.5mの「根本大塔」など19もの諸堂が建ち並んでいます。

此处では順次国宝の不動堂、根本大塔(真言密教の根本道場である伽藍の中心たる建物。内陣は撮影禁止でした。中心の本尊は胎蔵界大日如来。周りには東方に阿闍(あしゅく)如来、南方に宝生(ほうしょう)如来、西方に阿弥陀(あみだ)如来、北方に不空成就(ふくうじょうじゅ)如来の金剛界の四仏が取り囲んでいます。金剛界五仏(本尊の胎蔵界大日如来を含む)は、密教で5つの知恵(法界体性智、大円鏡智、平等性智、妙観察智、成所作智)を五体の如来にあてはめたものとのことです。

16本の柱には十六大菩薩、壁には密教を伝えた八祖像(はっそ=龍猛菩薩、龍智菩薩、金剛智、不空三像、善無畏、一行禪師、恵果阿闍梨、空海)が描かれ堂内そのものが曼荼羅を立体的に表現している。)寺坂ガイドの説明によるとこの根本大塔の内部は毎年大晦日にNHKの「ゆく年くる年」で放映され、大塔の鐘が除夜の鐘で使用されるとのことでした。今年も放映されるのでしょうか?期待していますよ!

その後金堂、御影堂、大塔の鐘を見学し三鉢の松へ。三鉢の松は松葉が3本と確かに大変珍しい松でした。弘法大師が唐から伽藍建立の地を占うために投げた三鉢が掛かったと伝えられたと言われてはいますが……此はちょっと眉唾物。(アカマツ、クロマツの二本(日本))

松は葉が 2 本、ゴヨウマツは葉が 5 本) 皆さん 3 本の葉を必死に見つけていました。更に持国天・多聞天・増長天・広目天を安置する中門を見学し記念撮影をしてからお土産屋さんの食事会場へ移動。11 時には早めの昼食となりましたが此処の昼食も天麩羅の海老以外は精進料理でとても健康的でした！何故かアルコールを飲まれる方はいませんでした。



2 日目の昼食

昼食を終わってから寺坂ガイドー押しの高野山名物のゴマ豆腐、高野豆腐等のお土産を購入し駐車場へ、ガイドの寺坂氏に 2 日に亘り名ガイドを務めていただきました。お礼を言って次の見学地である田辺市の熊野本宮大社に移動となりました。

バスを走らせること 2 時間半心地よい揺れに仮眠も取れ、漸く熊野本宮大社に到着し、早速両側に幟旗が立つ長い 158 段の階段を登ってのお参り。有り難いことに雨は降っていません。

熊野本宮大社は全国の「熊野神社」の総本宮にあたる熊野三山。三山の中でもとりわけ古式ゆかしい雰囲気漂わせるのが、此の聖地熊野本宮大社です。

この熊野本宮大社は、平成 7 年に社殿が国の重要文化財に指定されました。本殿へ続く石段の両脇には幟がなびき、生い茂る杉木立が悠久の歴史を感じさせます。

神門をくぐると檜皮葺の大きくて立派な社殿が姿を現しました。この大きな敷地の中で参拝者も友の会のメンバー以外には殆どいません。

向かって左手の社殿は夫須美大神(ふすみのおおかみ)本地仏:千手観音・速玉大神(はやたまのおおかみ)本地仏:薬師如来の両神。中央は主神の家津美御子大神(けつみみこのおおかみ)本地仏:阿弥陀如来。右手には天照大神(あまてらすおおみかみ)本地仏:十一面観音が祀られており、交通安全、大漁満足、家庭円満、夫婦和合、長寿の神として人々を迎え入れてきました。

「咲きにほふ 花のけしきを見るからに 神のこころぞ そらにしらるる」(早春、白河上皇が、熊野御幸の折御宝前にて詠まれたた御歌)の看板がありました。

また、熊野では八咫鳥(やたがらす:三本足の鳥)は神の使者とされています。ご存じの通り日本サッカー協会のマークにもなっています。2011 年 7 月女子サッカーワールドカップで「なでしこジャパン」が強豪を破り見事優勝しました。選手全員が此の八咫鳥のお守りを持参して戦いました。幾多の困難を乗り越え目標に向かって進むチームを導いてくれるのがこの「八咫鳥」です。これらのことから八咫鳥は、現在地から目的地の間、無事に到達する意・海上安全・交通安全(車・二輪車等)・旅行安全・通学安全の守護として仰がれているとのこと。勿論、此処にも賽銭を上げ今回の現地研修会の安全祈願のお祈りをしてきたことは言うまでもありません。

それにしても大きくて長い社です。各大神に賽銭を上げ丁寧に確りと欲張りな願い事を沢山してバスへと戻りました。

本宮を出発し今日の最終見学地の熊野速玉へ。熊野川をずっと下った河口、千穂ヶ峰の北東麓に鎮座する熊野速玉神社には 16 時 15 分過ぎに到着。熊野速玉神社は熊野三山のひとつ。熊野本宮大社とはうって変わった鮮やかな朱塗りの鳥居が目飛び込んで来ます。何とも鮮やかなお宮さんです。参道を暫く歩くと今度はひときわ大きな樹が目飛び込んで来ます。看板を見ると日本一の「榲:なぎ」の大樹です。平安末期に熊野三山造営奉行を務めた平重盛(清盛の嫡男)の手植えと伝えられています。推定樹齢 1000 年。榲としては日本最大。国の天然記念物に指定されていました。

榲は熊野権現の御神木で、その葉は、笠などにかざすことで魔除けとなり、帰りの道中を守護してくれるものと信じられていました。

参道を進むと鮮やかな朱塗りの神門。更に足を進めると朱塗りの瑞垣その先には朱塗りの社殿が5棟並んでいます。新しく見える社殿は昭和に再建されたようです。

第一本社は「結宮(むすびのみや)」といい、熊野結大神(くまのむすびのおおかみ。那智の主神)を祀っています。第二本社は「速玉宮(はやたまぐう)」といい、熊野速玉大神(くまのはやたまのおおかみ)を祀っています。

新宮では熊野速玉大御神・熊野結大神の2柱を主神としています。速玉大社というので、速玉大神が主神と思われそうですが、結、速玉の2神が主神だということです。この2神、速玉が男神で、結が女神ということで、夫婦神と考えられ元々は一社殿に祀られていました。

此处でも本宮大社同様に各大神に賽銭を上げ丁寧に確りと欲張りな願い事を沢山してバスへと戻りました。こんなにもお願いごとばかりで神様同士で喧嘩しないかなあ！

30分ほどで勝浦港のホテルの渡船場へ……本日のお宿は洞窟風呂で有名な「南紀勝浦温泉ホテル浦島」平成元年 or 2年に一度宿泊したことがあり、約30年振りの宿泊。当時はバブル絶頂期で土曜日だったのでとても混んでいたのを思い出します。



ホテル浦島への渡船

渡船「浦島丸(海亀を模った渡船)」に貸し切りで乗船し、ホテルのある島へ5分ほどで到着。今日の宿泊は日昇館。洞窟風呂が見えるロケーションのよい部屋です！今日の部屋割りも軒に苛まれること無く有り難い限り。早速、700mもの距離がある一番人気の絶景洞窟風呂「忘帰洞」へ……洞窟風呂に着くと…まあ！何と云うことでしょうか！お客さんが誰もいない！いやはや山岳友の会メンバーの貸し切洞風呂だ！お風呂は30年前と変わらない様な気がするけど随分昔のことなので。

貸し切り状態をいいことに此幸いと踵を返し脱衣所まで携帯電話を取りに戻り撮影、暫くの間メンバー以外のお客さんは誰もいない！海に面した先端の場所でも横田さんにカメラを取り戻してもらい記念撮影！間違いなく記念になる写真だ！

記念撮影後暫くすると他のお客さんが入ってこられました。セーフ！



2日目の夕食

夕食まではまだ時間があるので洞窟風呂から上がり2つめのお風呂へ直行。温泉を堪能したあとはあまり飲み過ぎないようにセーブをしながら軽く一杯！風呂上がりのビールは最高！その後夕食会場へ移動。昨夜の夕食以降は肉食を食していないので期待も膨らみます。これと言って凄い料理ではありませんでしたが、刺身にローストビーフ、すき焼き、天麩羅、茶碗蒸し…etc。昨夜とは違って変わって有り難い料理が並び昨日の反動なのかお酒が進みます。締めのご飯に味噌汁、デザートが出て賑やかな宴も20時45分には終了しました。

勿論、此でお開きになるはずも無く前夜同様、部屋に戻ってからも宴は続き皆さん沢山飲まれ、無事就寝となりました。

5月11日(水)お名残惜しくも三日目最終日

楽しく遊びの時間は時の経つのも極めて早いものですね。久し振りの二泊三日の研修旅行もいよいよ最終日。

前日より少し遅めの4時半起床。5時から昨夜入らなかった場所のお風呂へ。このホテルのお風呂は全部で4場所×2風呂(男女)=8風呂。全て入浴予定でしたが残念ながら7風呂で8風呂の完全制覇とはなりませんでしたが、4場所全て行ったので帰りに入浴剤をい

いただきました。

温泉後は朝食まで暫く時間があつたので軽くビールで乾杯！朝食は豪華なバイキング！アルコール抜きで美味しくいただきました。その後お土産を購入し玄関で記念撮影後渡船。8時過ぎにマンモスホテル「浦島」を後にしました。

バスは勝浦港から20分程走り那智大社下の駐車場へ到着。お土産屋さんの傘を借りて熊野那智大社へ。

長い階段を登り漸く、朱塗りの雨に佇む熊野那智大社へ到着。

熊野那智大社は熊野夫須美大神(くさのふすみのおおかみ)と申し上げる我が国最初の女神「イザナギノミコト」を主神として十三所の神々をお祀りし、全国の熊野神社四千余社の御本社である熊野三山(本宮、速玉、那智)の一社です。御社殿及び境内域は平成16年(2004年)に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、那智山社域一体は吉野熊野国立公園の特別地域でもあり、御本殿は国の重要文化財に指定されています。

御本殿の前に位置する礼殿で参拝。熊野本宮大社、熊野速玉神社に比べてとてもコンパクトな感じがします。30年程前に来たときは長い階段を登った記憶がありませんので近くの駐車場まで来たのかな？

参拝を済ませ本殿脇の和歌山県指定天然記念物の大楠の胎内くぐりをして、三十の塔、那智の滝をバックに写真を撮影。お土産屋に戻り那智の滝を連想させる銘菓「お滝餅」とお茶をいただきました。傘を借りたので義理を欠かぬように「お滝餅」「那智黒飴」等の土産品を購入。那智の滝へ向かいました。



雨の那智の滝

30年程前に見た那智の滝は日本三大瀑布の一つ。300円を支払って那智の滝を真正面に見られる拝所へ。滝は昔と変わらず荘厳で、また昨日からの雨で水量も多く見応えがありました。小雨の中滝をバックに記念写真を撮りバスへと戻り次の目的地である熊野市木本町にある海岸景勝地の鬼ヶ城へと向かいました。

鬼ヶ城は熊野灘の荒波に削られた大小無数の海食洞が、地震による隆起によって階段状に並び、熊野灘に面して1.2km続いている国の名勝の一部。健脚組は先端まで行かれました。

楽しかった二泊三日の研修会も残り僅かとなってきました。鬼ヶ城を後にし、尾鷲の昼食場所へバスを走らせること30分程で本日の昼食場所「お食事処 鬼瓦」に到着。

尾鷲と言えば矢張り魚…！刺身定食！本日は①絶品ケンケン鰹(南紀地方沿岸で、春先黒潮にのって北上する鰹を「ケンケン漁」と言われる引き縄釣り漁により1本ずつ釣り上げた後直ちに活け締めし氷温保存した鰹)②ビンチョウマグロ③ヒラマサ④カンパチ⑤ブリの5種類何れも甲乙付けがたい程美味しくいただきました。帰りの運転を考え飲酒される方はいませんでした。



3日目の昼食

昼食後は今回の研修最後の「お魚市場おとと」へ。運転手さんがまだ食事のため、何時もの如く「せっかち！」な皆さんは運動のために町中を眺めながら20～30分歩いて移動することに。満腹だったので丁度よい運動です。

此処が最後とばかりに沢山のお土産を購入し13時30分バスは帰路へと向かいましたが、

お土産購入は此処で終わる筈もなく、途中刈谷のハイウェイオアシスでは名物の「海老煎餅」、恵那の SA では到着したばかりの「赤福」を購入し 1 時間 10 分程で小黒川 PA に到着しました。

勿論、小黒川 PA で降りた私は澤田、立花両氏に別れを告げ 4 年間大変お世話になった伊那市内の飲み屋さんにお土産をもってアルコールなしのウーロン茶で檀家回りをしたのは言うまでもありません。(自宅に着いたのは日付が変わろうとしていました。)

参加されました皆さん！3 日間大変お世話になり有り難うございました。生涯記憶に残る思い出がまた一つ刻まれました。

退職し、再任用なのに現役時よりも仕事が忙しく？(35 年前の職務で随分昔と様変わりしてびっくりです。)竜頭蛇尾になってしまい申し訳ありません。おしまい！

レポーター：ペンネーム：獺祭036(DASSAI036)ことドラエモン



明神養魚池メンテナンス(22.6.11)報告

小林 久雄

梅雨入りしてから1週間、急な雷雨が心配される中でしたが、明神養魚池のメンテナンスをしました。

いつものメンバーがひとり欠員となってしまいましたが、急遽、王滝から澤田さんが参加を希望されて5人に。

雨もほとんどない好条件の中、澤田さんの大活躍で無事にどぶさらいを実施できました。

沢渡の高桑さんが雑草の様子見に来てくれて、いつも感謝しています。

参加の皆様大変お疲れさまでした。

これに懲りずに秋のメンテナンスにも、澤田さん是非参加いただけたら助かります。

信州大学山岳友の会会報 第 44 号
発行日：2022 年 7 月 25 日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
TEL：0263-37-3332
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp